

「第3次豊中アジェンダ21」2019年度評価

＜評価の対象・項目＞

- ・「第3次豊中アジェンダ21」でも引き続き、毎年実績を検証・評価し、行動提案は総会にて公表。

評価項目	関係	頻度	公表の方法
環境目標	環境基本計画と共有	毎年	豊中市環境報告書
行動提案		毎年	とよなか市民環境会議 総会

- ・「第2次豊中アジェンダ21」は個別の行動提案ごとに評価を実施していたが、「第3次豊中アジェンダ21」では望ましい環境都市像のテーマごとの総合評価に変更。
- ・評価項目や個別の評価指標は、状況に応じて追加・見直しをしながら運用していく。

項目	評価指標	評価方法
①統計や行政の行動の指標	行動提案と一緒に記載の 評価指標	数値の増減を前年度比で比較
②市民・事業者の行動の指標		
③構成団体チェックシート	行動提案の平均実施率	数値の増減を前年度比で比較
④市民の取組みの質的な評価	文章を作成して表現	状況の改善などを数値に換算
総合評価		①～④の評価をあわせて数値化

※一部のテーマでは適当な取組みがないため、市民・事業者の行動の指標を設定していない

＜評価の記載方法（総合評価のまとめ）＞

テーマごとの総合評価の結果を記載

昨年度の結果と比較できます

関連する SDGs の主なテーマ		望ましい環境都市像		総合評価 の結果	(参考) 昨年度 の結果
17 パートナーシップで 目標を達成しよう 	パートナーシップで 目標を達成しよう	市民参加・ 協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち	C	C
12 つくる責任 つかう責任 	つくる責任 つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち	C	D

}

}

2019年度 総合評価のまとめ	1.3 点	0.4 点
B評価が4つ、C評価が7つ、D評価が1つで、前年度よりB評価が1つ増え、D評価が1つ減りました。（以下略）		

まとめの内容を
文章にてコメント

テーマごとの総合総合の結果を点数化し、平均した値を10点満点に計算
※プラスの値：進捗とみなす

＜評価の記載方法（各テーマごとの総合評価）＞

直近の数値（2019）について、前年度（2018）から増減を表しています

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	139 団体	138 団体	139 団体	1 団体
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取組み事例数	232 件	192 件	未確定	△40 件

2019 年度の数値がない場合は網掛けをし、「未確定」と記載しています。この場合、2018 年度の数値について 2017 年度からの増減を表しています

④市民参加の質的な評価	協働の取組みに関する意見交換会（とよな をスタートしました。（以下略）	市民の状況を文章で説明し、 3段階で評価をします	○
【市民参加・協働】の総合評価			C
＜総合評価の補足説明＞ ・②環境交流センター利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、環境交流センターが臨時休館となった影響で減少しましたが、（以下略）			

指標の数値に現れない説明などを記載し、総合評価の際に考慮しています

①～④の評価を総合し、5 段階で評価をします

＜数値等の引用や作成＞

- ・①豊中市（行政）が主に把握している数値。
- ・②NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21、および豊中市が把握している市民の取組みの数値。
- ・③とよなか市民環境会議の構成団体（139 団体）を対象に、2019 年 3～4 月に実施し、53 団体が回答。
- ・④NPO 法人とよなか市民環境会議アジェンダ 21 が協力し、とよなか市民環境会議で作成。

＜評価の手順＞

- ・①②でテーマごとに設定している指標の数値を各年度に入れる。
③は構成団体から回答された実施率を計算し、各年度に入れる。
- ・直近の数値（2019 年度）について、前年度（2018 年度）と比較し、前年度からの増減を記載する。
増減の割合に応じて評価する。
※直近の数値が把握できていない場合は、前年度（2018 年度）と前々年度（2017 年度）の数値を比較。
- ・④は①～③以外の内容について、市民の活動状況を文章で説明して評価する。
※文章の内容を、良い◎・普通○・課題がある△の 3 段階に換算して表現する。
- ・①～④の評価を総合し、5 段階で評価する。
※高い評価 A・評価できる B・普通 C・少し課題がある D・とても低い評価 E
※評価の際には、＜総合評価の補足説明＞の内容を考慮する。

-
- ・テーマごとの A～E の総合評価を点数に換算する（A：10 点、B：5 点、C：0 点、D：-5 点、E：-10 点）。
 - ・換算した点数の平均を計算し、10 点満点で評価する。（※小数第 2 位を四捨五入する）
 - ・10 点満点の数値がプラスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて進捗をした、また、数値がマイナスであれば、望ましい環境都市像の実現に向けて後退したとみなす。

<2019 年度 総合評価のまとめ>

関連する SDGs の主なテーマ		望ましい環境都市像		総合評価 の結果	(参考) 昨年度 の結果
	パートナーシップで 目標を達成しよう	市民参加・ 協働	地域の環境活動に市民・事業者が参加 し、行政とともに協働で取り組むまち	C	C
	つくる責任 つかう責任	人にやさしい	多様な世代が地域の中でつながり、安全・ 安心に住み続けやすいまち	C	D
	住み続けられる まちづくりを	まちづくり	地域活動が活発で、地域の特徴に応じ たまちづくりができるまち	C	C
	質の高い教育を みんなに	環境学習・ 環境教育	みんなが環境についてともに学び、行 動に取り組むまち	B	C
	気候変動に 具体的な対策を	地球環境	地球温暖化を今よりも進めないため、 自分にできることから取り組むまち	B	B
	エネルギーをみんなに そしてクリーンに	エネルギー	くらしの中で省エネルギーを意識し、 みんなで自然エネルギーの導入に取り 組めるまち	C	B
	住み続けられる まちづくりを	交通	歩きやすく、自転車で走りやすく、公 共交通の便利なまち	B	C
	つくる責任 つかう責任	省資源・ 循環型社会	ごみになるものを減らし、資源として 循環することができるまち	B	B
	飢餓を ゼロに	食・農	地産地消で広がる活き活き農業と、「と よっぴー」を紡いで食育が実感できる まち	C	D
	陸の豊かさ も守ろう	自然との共生	多様な生き物がすみ、みどり豊かで、 水辺に親しむことができるまち	C	C
	住み続けられる まちづくりを	歴史・文化	身近なところで、育んできた歴史・文 化・景観を感じられるまち	C	C
	安全な水とトイレ を世界中に	音・水・大気	騒音や有害な化学物質のない、きれい な水や空気があるまち	D	C
	海の豊かさ も守ろう				
2019 年度 総合評価のまとめ				1.3 点	0.4 点
B 評価が 4 つ、C 評価が 7 つ、D 評価が 1 つで、前年度より B 評価が 1 つ増え、D 評 価が 1 つ減りました。「環境学習・環境教育」「地球環境」「省資源・循環型社会」は、 数値評価に加え、質的な評価においても高評価となり B 評価となりました。D 評価と なった「音・水・大気」は、構成団体の行動提案実施率は微増したものの、数値指標の 評価が影響を受け D 評価となりました。					

<2019 年度 各テーマごとの総合評価>

【市民参加・協働】地域の環境活動に市民・事業者が参加し、行政とともに協働で取り組むまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか市民環境会議の構成団体数	139 団体	138 団体	139 団体	1 団体
②市民・事業者の行動の指標	市民、事業者の環境活動の取組み事例数	232 件	192 件	未確定	△40 件
	とよなか市民環境展の来場者数、出展団体数	3,247 人 52 団体	3,812 人 44 団体	3,600 人 43 団体	△212 人 △1 団体
	環境交流センター利用者数、会議室等利用回数	17,306 人 563 回	18,458 人 486 回	18,354 人 422 回	△104 人 △64 回
	市民環境展への協賛・寄付	231,840 円	210,835 円	241,936 円	31,101 円
③構成団体チェックシート	行動提案の 7 項目の平均実施率	—	45.24%	40.43%	△4.81%
④市民参加の質的な評価	協働とパートナーシップの取組みについて、成果や課題を共有する場である協働の取組みに関する意見交換会（とよなか市民環境会議主催）の本格実施をスタートしました。市内の主な環境イベントは予定通り実施されました。				○
【市民参加・協働】の総合評価					C
<総合評価の補足説明> ・②環境交流センター利用者数は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、環境交流センターが臨時休館となった影響で減少しましたが、臨時休館がなければ 2018 年度よりも 1,300 人以上の増加となる見込みでした。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、環境展の出展・参加や環境交流センターの活用による「ネットワーク・情報交流」の実施率が低下し、市民も費用を出し合いとよなか市民環境会議の活動を支える「基盤強化」の実施率がやや向上しました。 ・今後は、とよなか市民環境会議の活動強化を通じて、市民・事業者の参加・協働の機会をさらに増やしていくことが求められます。					

【人にやさしい】多様な世代が地域の中でつながり、安全・安心に住み続けやすいまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の行動の指標	とよなか百万歩ウォーク参加者数	1,092 人	1,148 人	1,253 人	105 人
②市民・事業者の行動の指標	NPO アジェンダ（企画屋本舗）行事参加者数	90 人	51 人	80 人	29 人
	環境マネジメントシステムの導入事業所数	46 件	41 件	37 件	△4 件
③構成団体チェックシート	行動提案の 5 項目の平均実施率	—	58.57%	59.25%	0.68%
④市民参加の質的な評価	事業者の環境配慮や市民の安心安全などの意識は少しずつ高まっていると推察されます。環境分野に限りませんが、とよなか地域創生塾などでも地域資源を見つける取組みが行われています。				○
【人にやさしい】の総合評価					C
＜総合評価の補足説明＞					
・②NPO アジェンダ（企画屋本舗）の参加者数は 2018 年度より増加しましたが、2017 年度と比べるとまだ少ない状態です。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、一部の行事が中止となりました。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、環境マネジメントシステムやグリーン購入・調達といった「事業者の心がけ」の実施率が向上した一方で、「安全に移動できるまち」の実施率が低下しました。 ・今後は、健康と環境の両立の視点から、より多くの人が環境活動に関わっていく機会作りなどが求められます。					

【まちづくり】地域活動が活発で、地域の特徴に応じたまちづくりができるまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の 行動の指標	地域清掃活動登録企業数	10 団体	10 団体	11 団体	1 団体
	生垣緑化助成件数	4 件	2 件	5 件	3 件
②市民・事業者の 行動の指標	みどりのカーテン参加団体数	65 団体	64 団体	64 団体	0 件
	花いっぱい運動実施場所数	31 か所	31 か所	31 か所	0 か所
③構成団体 チェックシート	行動提案の 5 項目の平均実施率	—	53.33%	51.32%	△2.01%
④市民参加の 質的な評価	特筆すべき新たな動きはありませんでしたが、地域清掃や地域での緑化などの市民活動は着実に実施されています。				○
【まちづくり】の総合評価					C
＜総合評価の補足説明＞ ・②みどりのカーテン参加団体数と花いっぱい運動実施場所数は増減の変化がないため、継続的な実施ができているが、新たな参加が得られていないと言えます。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、地域貢献活動の実践といった「事業者の心がけ」の実施率が低下しました。 ・今後は、いずれの指標においても新たな参加が増えて、地域活動がさらに活発になっていくことが求められます。					

【環境学習・環境教育】みんなが環境についてともに学び、行動に取り組むまち

項目	指標名	2017	2018	2019	比較等
①統計や行政の 行動の指標	出前環境学習の実施回数	8 回	13 回	22 回	9 回
	緑化リーダー養成講座受講者数	49 人	49 人	41 人	△8 人
②市民・事業者の 行動の指標	NPO アジェンダ（事業部会）の行事 参加者数	20 人	17 人	25 人	8 人
③構成団体 チェックシート	行動提案の 4 項目の平均実施率	—	39.88%	48.11%	8.23%
④市民参加の 質的な評価	協働の取組みに関する意見交換会では、「環境学習」をテーマに実施し、環境学習について考え、整理し、次へとつなげていく機会を作ることができました。				◎
【環境学習・環境教育】の総合評価					B
＜総合評価の補足説明＞					
・①出前環境学習の実施回数は、行政による市民向けの出前講座で、実施回数が大幅に増加しました。特にごみ関係の出前講座の依頼が増えています。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、学校やこども園、地域活動における「環境学習・環境教育」の実施率が約 10%向上しました。「豊中アジェンダ 21」を推進するための「人材育成」も増加しており、構成団体の意識向上がうかがえます。 ・今後は、協働の取組みに関する意見交換会で得られた知見やネットワークを活動でしっかりと活かしていくことが求められます。					

【地球環境】地球温暖化を今よりも進めないため、自分にできることから取り組むまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の 行動の指標	1人あたり温室効果ガス排出量	3.29 t-CO2	3.16 t-CO2	未確定	△0.13 t-CO2
②市民・事業者の 行動の指標	対象事業（環境交流センター）の参加 者数	115人	154人	101人	△53人
③構成団体 チェックシート	行動提案の3項目の平均実施率	—	66.67%	69.18%	2.51%
④市民参加の 質的な評価	環境展やくらしかん祭りなどでブースごとにSDGsの番号を掲げるなど、市民活動でもSDGsを通して地球環境に対する視点を持つ機会が増えつつあります。				◎
【地球環境】の総合評価					B
<総合評価の補足説明> ・①1人あたり温室効果ガス排出量は環境目標でもあります。市内の販売電力量についてすべての把握が難しい状況ですが、目標達成に向けておおむね順調に進んでいます。 ・②対象事業（環境交流センター）の参加者数は、2018年度の参加者が特に多かったために大きく減少したように見えますが、2019年度も定員を大きく超える参加があり、十分な結果であると評価できます。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「地球環境」の実施率が90%近く、気候変動に対する意識の高さがうかがえます。 ・今後は、地球環境問題を考える機会をさらに増やすとともに、他のテーマよりも指標の数が少ないことから、指標の拡充が求められます。					

B

【エネルギー】くらしの中で省エネルギーを意識し、みんなで自然エネルギーの導入に取り組めるまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の 行動の指標	1人あたりのエネルギー消費量	37.6GJ	36.2GJ	未確定	△1.4GJ
	太陽光発電補助による導入量	262kw	351kw	296kw	△55kw
②市民・事業者の 行動の指標	市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業によるCO2削減量	8,959kg	8,931kg	3,635kg	△5,296kg
	エコポイントチケット「とよか」配布枚数	4,383枚	6,112枚	7,465枚	1,353枚
③構成団体 チェックシート	行動提案の6項目の平均実施率	—	76.98%	80.19%	3.21%
④市民参加の 質的な評価	夏の酷暑から「省エネ」一辺倒ではなくなっていることや、「省エネ」というキーワードでは響かない世代があるとされるなど、市民のエネルギーに対する捉え方が変わりつつあります。				○
【エネルギー】の総合評価					C
<総合評価の補足説明> ・①1人あたりのエネルギー消費量は微減しているのに対して、太陽光発電補助による導入量も減少しています。 ・②市民向け地球温暖化対策省エネ推進事業によるCO2削減量は2018年度と比べて単年度での成果が下がったものの、市民の参加者数は増えたため、エコポイントチケット「とよか」配布枚数は大きく増えています。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「省エネルギー」などの実施率からエネルギーに対する意識の高さが感じられます。 ・今後は、関心を持つだけでなく、削減などの成果へとつながるような、次のステップの取組みが求められます。					

【交通】歩きやすく、自転車で走りやすく、公共交通の便利なまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の 行動の指標	自動車保有台数（総数）	154,845 台	154,169 台	153,027 台	△1,142 台
	電気自動車充電スタンド数	28 か所	27 か所	29 か所	2 か所
	阪急電車の利用者数	180,902 人	180,631 人	未確定	271 人
	カーシェアリングの台数	197 台	216 台	247 台	31 台
	自転車通行空間整備状況	7.57km	8.65km	9.89km	1.24km
②市民・事業者の 行動の指標	エコドライブキャンペーンの参加者数	53 人	68 人	81 人	13 人
③構成団体 チェックシート	行動提案の 14 項目の平均実施率	—	46.60%	46.90%	0.30%
④市民参加の 質的な評価	西部地域の乗合タクシー運行やシェアサイクル実証実験などの行政施策により、市民の交通利便性は向上しつつあります。				○
【交通】の総合評価					B
<総合評価の補足説明> ・③構成団体の行動提案の実施状況は、宅配便の受け取りや荷物の共同集配の実施率がかなり低い状況です。 ・今後は、新型コロナウイルス感染拡大予防により、ライフスタイルの大幅な変化が想定されるため、公共交通機関やマイカーの利用状況、宅配便の受け取りや荷物の共同集配の状況をはじめとした、【交通】のテーマ全般についての動向を注視していくことが求められます。					

【省資源・循環型社会】ごみになるものを減らし、資源として循環することができるまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の 行動の指標	1人1日あたりのごみ量	726.0g	731.9g	未確定	5.9g
	環境関連施設の見学者数	17,015人	16,807人	16,657人	△150人
②市民・事業者の 行動の指標	マイバッグ持参率	48%	72.9%	未確定	24.9%
	豊中エコショップ認定店舗数	115店	128店	142店	14店
	リサイクル工作参加者数	103人	81人	47人	△34人
③構成団体 チェックシート	行動提案の8項目の平均実施率	—	62.50%	64.86%	2.36%
④市民参加の 質的な評価	マイクロプラスチックによる海洋汚染問題が広く話題となりました。環境展でもプラスチック問題をテーマとした企画展示を実施するなど、市民が問題を知る機会が増えました。				◎
【省資源・循環型社会】の総合評価					B
<総合評価の補足説明> ・②マイバッグ持参率は、結果が1年遅れのため、北摂7市3町でマイバッグ持参・レジ袋削減協定がされた成果が今回の増減で現れています。 ・②リサイクル工作参加者数は、主に環境交流センターでの参加者数ですが、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、複数回の開催が中止となり、参加者が大幅に減少しました。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「3Rの推進」の実施率はわずかに向上しています。 ・今後は、新型コロナウイルス感染拡大予防による自粛生活などから、ごみや資源循環に与える影響についても考えていくことが求められます。					

【食・農】地産地消で広がる活き活き農業と、「とよっぴー」を紡いで食育が実感できるまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の 行動の指標	「とよっぴー」製造量	107.2t	106.4t	88.7t	△17.7t
	地域産野菜等の学校等給食提供回数	120 回	127 回	132 回	5 回
	市民農園申込者数	2,072 人	1,920 人	1,549 人	△371 人
②市民・事業者の 行動の指標	「とよっぴー」の購入者数	1,377 人	1,320 人	1,034 人	△286 人
	地産地消野菜の購入者数	2,035 人	1,807 人	1,924 人	117 人
	食育学習の回数、参加者数	95 回 5,798 人	136 回 1,922 人	114 回 4,709 人	△22 回 2,787 人
③構成団体 チェックシート	行動提案の 6 項目の平均実施率	—	51.19%	51.89%	0.70%
④市民参加の 質的な評価	具体的な活動で新しいものではありませんが、スーパーや飲食店でも地場産野菜を見かける機会が増え、地産地消に対する市民の意識も少しずつ広がってきていると考えられます。				○
【食・農】の総合評価					C
<総合評価の補足説明> ・①「とよっぴー」の製造量は、食品残渣が減少し、街路樹の剪定枝のチップが細くなった効果などにより、大幅に減少しました。 ・②「とよっぴー」の購入者数や地産地消野菜の購入者数は、新型コロナウイルス感染拡大予防による中止の影響により、実際の見込みよりも少なくなりました。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、傾向も含めてほぼ変化がありませんでした。 ・今後は、新型コロナウイルス感染拡大予防による小学校の臨時休校により、学校給食や食育学習にも影響が及ぶと考えられるため、新たな推進の方策の検討が求められます。					

【自然との共生】多様な生き物がすみ、みどり豊かで、水辺に親しむことができるまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の 行動の指標	緑被率	未実施	未実施	未実施	＝
	特定外来生物措置件数	27 件	26 件	16 件	△10 件
	タヌキ・キツネの相談件数	18 件	22 件	11 件	△11 件
	ため池の箇所数	33 か所	33 か所	32 か所	△1 か所
②市民・事業者の 行動の指標	NPO アジェンダ（自然部会）行事参加者数	719 人	594 人	603 人	9 人
	自主管理登録団体数	171 団体	171 団体	174 団体	3 団体
③構成団体 チェックシート	行動提案の 13 項目の平均実施率	—	37.91%	48.77%	10.86%
④市民参加の 質的な評価	市内の開発地域において、市民からキツネの生息の情報提供があり、地域住民や市民団体の活動、開発業者の協力によりキツネの巣別れの時期を超える猶予期間を確保できました。しかし、【自然との共生】のテーマである「自然を守り育てる」としては、“造成時にもとの自然をできるだけ残す”“希少な動植物の生息環境を保全し続ける”ということで課題が残りました。				△
【自然との共生】の総合評価					C
<総合評価の補足説明> ・①特定外来措置件数やタヌキ・キツネの相談件数の評価は考え方が分かれるところですが、件数が少ない＝確認が少ないという前提での評価を行っています。 ・②NPO アジェンダ（自然部会）行事参加者数は、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、行事の一部が中止や長期延期となっています。 ・③構成団体の行動提案の実施状況では、「自然を守り育てる」をはじめとした各項目で実施率がアップし、【自然との共生】の平均実施率が 10%以上向上しました。 ・今後は、動・植物種の減少が懸念されていることから、豊中の自然のあり方、望ましい生物多様性の状況について、多様な主体と広く考えていくことが求められます。					

【歴史・文化】身近なところで、育んできた歴史・文化・景観を感じられるまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等	
①統計や行政の 行動の指標	景観に関する協定件数	2 件	2 件	2 件	0 件	
	指定文化財数	86 件	86 件	87 件	1 件	
	保護樹、保護樹林数	140 本 10 件	138 本 10 件	139 本 10 件	1 本 0 件	
②市民・事業者の 行動の指標						
③構成団体 チェックシート	行動提案の 3 項目の平均実施率	—	56.35%	59.75%	3.4%	
④市民参加の 質的な評価	とよなか百景のスタンプラリーの実施や、野田堤防などの歴史的環境を豊中の里地として見て歩く行事の開催など、市民が歴史や文化に触れる機会が作られました。					○
【歴史・文化】の総合評価						C
＜総合評価の補足説明＞ ・①行政の指標は、ほぼ横ばいで大きな変化はありませんでした。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「景観」の実施率がやや向上しました。 ・今後は、昨年度と同じく、具体的な取組みの拡充と、市民・事業者の行動の指標設定が求められます。						

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。

【音・水・大気】騒音や有害な化学物質のない、きれいな水や空気があるまち

項目	指標名	2017	2018	2019	増減等
①統計や行政の 行動の指標	環境基準達成状況（大気・水質・道路 騒音・航空機騒音・ <u>ダイオキシン</u> ）	88.0%	88.0%	未確定	0.0%
		97.2%	97.4%		0.2%
		92.2%	94.1%		1.9%
		0.0%	0.0%		0.0%
		100.0%	100.0%		0.0%
②市民・事業者の 行動の指標	公害関係苦情件数（大気汚染・水質汚 濁・騒音）	83 件	86 件	100 件	14 件
	雨水貯留タンク助成件数	9 件	14 件	6 件	△8 件
	1 人 1 日平均給水量	258 ℓ	241 ℓ	239 ℓ	△2 ℓ
③構成団体 チェックシート	行動提案の 6 項目の平均実施率	—	66.67%	70.13%	3.46%
④市民参加の 質的な評価	音・水・大気については、イベントや事業としての実施よりも、各家庭での 実践により進められている部分が大きいです。行動提案を実現するための活 動などが課題です。				△
【音・水・大気】の総合評価					D
＜総合評価の補足説明＞					
・①公害関係苦情件数は大幅に増加しました。内訳は、水質汚濁が 0 件で推移し、騒音の件数も 変わりがない一方で、大気汚染の件数が増加傾向にあります。 ・③構成団体の行動提案の実施状況は、「大気」の実施率が 10%以上向上し、平均実施率を押し 上げました。 ・今後は、昨年度と同じく、市民・事業者の行動の指標設定が求められます。					

※現時点では、市民・事業者の行動の指標が設定されていません。

※「指標名」の下線部分は今回新たに加筆・修正した内容です。